

1. 研究課題名：侵入種生態リスクの評価手法と対策に関する研究

2. 研究代表者：五箇 公一

((独)国立環境研究所生物多様性プロジェクト)

3. 研究実施期間：平成 16～18 年度



4. 研究の趣旨・概要

本来の生息地以外に生物種が人為的要因によって運ばれ、分布拡大する生物学的侵入は、生物多様性を脅かす要因として国際的に問題視されている。我が国でも、2003 年に環境省中央審議会移入種対策小委員会が設置され、「外来種対策法案」の準備が進められるに至った。

本研究では法律対応としての侵入種リスク評価手法の開発・検討を行うとともに、「寄生生物等の隨伴侵入」という問題を重点的に調査研究し、その対策を検討する。また中央環境審議会において特に侵入種から在来生態系を守る必要性が高いと指摘されている「重要管理地域」の一つである沖縄奄美地域の侵入種問題に対して、本研究では侵入種駆除および侵入防止のためのシステム構築を行い、同地域における侵入種対策の具体的方針をうち立てることを目指す。

本研究の成果は、「外来種対策法」が運用される際に必要となる輸入生物リスク評価ガイドライン策定にあたって重要な指針と具体例を示すものとなる。また、特に隨伴侵入種の問題をクローズアップし、実証データを示すことで、輸入生物および輸入資材に対する検疫システムや規制のあり方を検討する材料となる。さらに、沖縄・奄美地域は「重要管理地域」のひとつであるばかりでなく、世界遺産の候補地でもあり、本研究の成果はこの重要地域における生物多様性・固有性という貴重な生物的資源の優先的保全施策に資するものとして期待される。

5. 研究項目及び実施体制

侵入種生態リスク評価手法の開発に関する研究

(独)国立環境研究所、東京大学、北海道大学、琉球大学、東北大学、
滋賀県立琵琶湖博物館

随伴侵入生物の生態影響に関する研究

(独)国立環境研究所、麻布大学

沖縄・奄美地方における侵入種影響および駆除対策に関する研究

(独)森林総合研究所、環境省やんばる野生生物保護センター、(財)世界自然保護基金

6. 研究のイメージ

